

大項目	中項目	第3期指標項目(案)	指標の算出方法	第2期目標値及び実績値(R1~R5)					第2期目標値		第3期目標値		指標設定の考え方																
				最終目標値の達成時期が「毎年度」の場合、「最終目標値」が各年度の目標値となる					R6 (最終)	達成時期	R12 (最終)	達成時期																	
				R1	R2	R3	R4	R5						平均値(累計の場合は直近値)															
1 教育	(No.1)学生の確保	1 学部志願倍率	志願者数/募集定員数(一般)	目標値	4.3倍	→				—	4.3倍	毎年度	4.0倍	毎年度	過去の志願倍率(新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられるR2、R3を除く)と人口減少率9%を勘案 R1、R4、R5の実績4.03倍×91%×1.1倍(向上率)→4.03÷4.0 新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられるR2年度とR3年度実績を除外。														
		実績値	4.1倍	3.1倍	8.3倍	3.8倍	4.3倍	4.7倍																					
	2	【新規】大学院収容定員充足率	博士前期課程 在籍者数/収容定員数	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	収容定員の充足														
			博士後期課程 在籍者数/収容定員数	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100%		毎年度													
	(No.2)教育の内容	3 国家資格合格率	看護師	目標値	100%	→				—	100%	毎年度	100%	毎年度	卒業予定者全員の合格実現														
				実績値	100%	99.0%	100%	97.9%	97.9%	99.0%																			
			保健師	目標値	100%	→				—	100%	毎年度	100%	毎年度	受験資格取得者全員の合格実現														
		実績値	96.4%	97.8%	97.5%	96.6%	97.5%	97.2%																					
		助産師(大学院)	目標値	100%	→				—	100%	毎年度	100%	毎年度	受験資格取得者全員の合格実現															
			実績値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
4	【新規】卒業時・修了時ディプロマポリシー到達度	学部 到達と評価する学生割合(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度	他大学を参考に設定 「到達と評価する学生割合」 大分県立看護科学大、宮崎県立看護大学、神奈川県立保健福祉大： 「80%以上」															
		博士前期課程 到達と評価する学生割合(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度																
		博士後期課程 到達と評価する学生割合(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度																
		実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
		実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
		実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
参考	【新規】[参考指標]4年次生の卒業率	卒業生数/4年次生数	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	4年次生全員の卒業(国家試験受験)実現															
実績値	97.8%	99.0%	95.5%	97.0%	100.0%	97.9%																							
(No.3)教育の実施体制	5 学生の授業内容等満足度	5段階評価の大学平均	目標値	4.2点	→				—	4.2点	毎年度	4.5点	毎年度	他大学よりも高いと考えられるが、第2期平均に目標値を引上げ <table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>指標の算出方法</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石川県立看護大学</td> <td>学生満足度 授業内容等の学生アンケートで、5段階評価の上位2位の回答割合</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>岐阜県立看護大学</td> <td>教養科目の満足度(「非常に満足している」または「どちらかという満足している」と回答した者の割合)</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>宮崎県立看護大学</td> <td>学生の授業内容満足度 授業評価アンケート 5段階評価のうち上位2項目の割合</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>沖縄県立看護大学</td> <td>カリキュラム、学修環境の満足度</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	指標の算出方法	目標値	石川県立看護大学	学生満足度 授業内容等の学生アンケートで、5段階評価の上位2位の回答割合	85%	岐阜県立看護大学	教養科目の満足度(「非常に満足している」または「どちらかという満足している」と回答した者の割合)	80%	宮崎県立看護大学	学生の授業内容満足度 授業評価アンケート 5段階評価のうち上位2項目の割合	80%	沖縄県立看護大学	カリキュラム、学修環境の満足度	80%
大学名	指標の算出方法	目標値																											
石川県立看護大学	学生満足度 授業内容等の学生アンケートで、5段階評価の上位2位の回答割合	85%																											
岐阜県立看護大学	教養科目の満足度(「非常に満足している」または「どちらかという満足している」と回答した者の割合)	80%																											
宮崎県立看護大学	学生の授業内容満足度 授業評価アンケート 5段階評価のうち上位2項目の割合	80%																											
沖縄県立看護大学	カリキュラム、学修環境の満足度	80%																											
実績値	4.6点	4.3点	4.4点	4.5点	4.6点	4.5点																							

大項目	中項目	第3期指標項目(案)	指標の算出方法	第2期目標値及び実績値(R1~R5)					第2期目標値		第3期目標値		指標設定の考え方等			
				最終目標値の達成時期が「毎年度」の場合、「最終目標値」が各年度の目標値となる					R6 (最終)	達成時期	R12 (最終)	達成時期				
				R1	R2	R3	R4	R5						平均値(累計の場合 は直近値)		
1 教育	(No.3)教育の実 施体制	6 【新規】FD研修参加率	年1回以上研修に参加した教員数/教員数	目標値	—	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	全教員のFDへの参加実現		
		実績値	79.6%	24.5%	コロナのため中止	45.3%	61.1%	52.6%	—	—	100%	毎年度				
		7 【新規】テキスト・資料のデ ジタル化率(デジタル化でき るテキスト・資料)	デジタル化の数/必修科目のテキスト・ 資料の数(最終年度)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	R12	テキスト・資料のデジタル化実現	
				実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	R7:— R8:— R9:— R10:— R11:— R12:100%
	(No.4)学生への 支援	3 【再掲】国家資格合格率	看護師	目標値	100%	—	—	—	—	—	100%	毎年度	100%	毎年度	卒業予定者全員の合格実現	
				実績値	100%	99.0%	100%	97.9%	97.9%	99.0%	100%	毎年度	100%	毎年度		
			保健師	目標値	100%	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	100%	毎年度	受験資格取得者全員の合格実現
				実績値	96.4%	97.8%	97.5%	96.6%	97.5%	97.2%	100%	毎年度	100%	毎年度		
			助産師(大学院)	目標値	100%	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	100%	毎年度	受験資格取得者全員の合格実現
				実績値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	毎年度	100%	毎年度	
8 就職希望者の就職率	就職者数/就職希望者数	目標値	100%	—	—	—	—	—	100%	毎年度	100%	毎年度	就職希望者全員の就職実現			
9 新卒者の県内就職率	県内就職者数/就職者数	目標値	69%	—	—	—	—	—	69%	毎年度	63%	毎年度	県の新総合計画では、全県の目標を一時的に改善した新型コロナ下の水準 (最高値であるR3年度値まで8年間で段階的引上げ)としており、これ に準ずる。 本学は母数が小さく、全県に比べて年度による差が大きいため、R2~R 4年度の平均値とする。段階的引上げではなく毎年度の目標値とする。			
県内就職者数/県内出身の就職者数	目標値	85%	—	—	—	—	—	85%	毎年度	75%	毎年度					
2 研究	(No.5)研究水準 及び成果等	10 著書件数	著書件数/年	目標値	10件	—	—	—	—	—	10件	R6	10件	毎年度	第2期平均の10%増を上回る第2期目標水準を維持 8件×1.1=8.8件≒9件	
		実績値	7件	6件	12件	7件	10件	8件	72件	R6	62件	毎年度	第2期平均の10%増 56件×1.1=61.6件≒62件 [参考] OR6.11月人員構成における大学期待値 33件 教授 12人× 1件……………12件 准教授 11人× 1件……………11件 講師 7人× 0.5件(2年に1件)…3.5件 助教・助手 20人×0.33件(3年に1件)…6.6件 33.1件 ○大学期待値から設定する目標 50件 33件×1.5倍≒50件			
		11 論文件数	論文件数/年	目標値	72件	—	—	—	—	—	72件	R6	62件	毎年度		
				実績値	57件	49件	43件	48件	85件	56件	65件	R6	53件	毎年度	第2期平均の10%増 48件×1.1=52.8件≒53件	
		12 学会報告件数	学会報告件数/年	目標値	123件	—	—	—	—	—	123件	R6	110件	毎年度	第2期平均の20%増(新型コロナの影響で学会が少なかった時期があるこ とを考慮して向上率引上げ) 91件×1.2=109.2件≒110件	
				実績値	121件	97件	70件	84件	85件	91件	33件	毎年度	78件	毎年度	第2期平均に目標値引上げ	
		13 論文等の被引用件数	論文等の被引用件数/年	目標値	33件	—	—	—	—	—	33件	毎年度	78件	毎年度		
				実績値	37件	70件	100件	91件	90件	78件	—	—	90%	R12	申請率90%を目指す R7:65% R8:70% R9:75% R10:80% R11:85% R12:90%	
		(No.6)研究実施 体制の整備等	14 【新規】科学研究費補助金の 新規申請率	新規申請教員数/申請可能教員数 (最終年度)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	90%	R12	
			実績値	66.7%	64.0%	62.5%	61.5%	54.3%	61.8%	—	—	25%	毎年度	第2期平均の10%増		
15 【新規】科学研究費補助金の 新規採択率	新規採択件数/新規申請件数		目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	25%	毎年度			
実績値	27.8%		15.6%	23.1%	26.3%	20.0%	22.6%	20件	毎年度	23件	毎年度	R1(感染拡大前)実績の10%増 21件×1.1=23件 第2期は新型コロナウイルス感染症の影響で研究が遅れ、科学研究費補助 金の研究期間の延長が多発した。延長はすべて獲得件数にカウントされる 一方、延長ではなく新規申請する場合には一定の不採択が発生するため、 獲得件数は少なくなる。コロナ下では通常よりも延長が多く獲得件数も多 い状況にあったため、目標値設定にあたっては、通常の状態ベースに向上 率を乗じることとする。				
参考	大学における研究発表会の開 催件数	研究発表会の開催件数/年	目標値	4件	—	—	—	—	—	4件	毎年度	4件	毎年度	第2期実績を維持		
実績値	4件	1件	5件	5件	5件	4件										

大項目	中項目	第3期指標項目(案)	指標の算出方法	第2期目標値及び実績値(R1~R5)						第2期目標値		第3期目標値		指標設定の考え方等		
				最終目標値の達成時期が「毎年度」の場合、「最終目標値」が各年度の目標値となる						R6 (最終)	達成時期	R12 (最終)	達成時期			
				R1	R2	R3	R4	R5	平均値(累計の場合 は直近値)							
3 地域貢献・国際交流	(No.7)地域社会 ニーズへの対応	17 【新規】市民公開講座 ※目標値及び実績値の() は、看護職学習支援公開講座 を含む値	開催件数/年	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	7回	毎年度	第2期平均の10%増 6.5回×1.1=7.15≒7回	
				実績値	6回 (21回)	コロナのため中止 (14回)	6回 (16回)	7回 (15回)	7回 (15回)	6.5回 —						
			聴講者数/年	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	675人	毎年度	第2期平均の10%増 614人×1.1=675人	
		実績値		679人 (1,685人)	コロナのため中止 (774人)	469人 (805人)	568人 (1,025人)	739人 (1,025人)	614人 —							
		満足度(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	85%	毎年度	第2期平均を向上 「満足度が高くない人(5段階評価の下位3位)」の1割を「満足度が高い人(上位2位)」に引き上げる。 16.2%×1割+83.8%=85.42%≒85%		
			実績値	87.3% (88.1%)	コロナのため中止 (79.6%)	78.0% (79.6%)	83.8% (84.4%)	86.1% (84.6%)	83.8% —							
	18	【新規】看護職学習支援	看護職リカレント教育登録者数/年	目標値	19人	—	—	—	—	—	19人	R6	22人	毎年度	新型コロナウイルスによる看護職の業務多忙の継続等を考慮して第2期平均値に設定 【説明】 病院でのクラスター発生など新型コロナウイルスによる看護職の業務多忙は継続している。公開講座参加者の大多数は現役の看護職であり、講座は土曜日開催となっている。看護職からは、業務多忙に加え、土日も育児やローテーションでの業務があり、ワークライフバランスを考えると参加しにくいという声を聞く。	
			【新規】公開講座参加者数/年	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	178人	毎年度		
		19	マスメディアに取り上げられた件数	新聞掲載数(国・地方)/年	目標値	210件	—	—	—	—	—	210件	R6	210件	毎年度	地域紙の廃刊や発行頻度減等により件数は減少傾向にある。直近のR5実績値202件を上回る第2期目標値を継続する。
	(No.8)地域社会 との連携	20	研究指導等講師派遣数	講師派遣数/年	目標値	81人	—	—	—	—	—	81人	毎年度	73人	毎年度	他大学の非常勤講師等であり、今後、人的資源を学内教育・研究に集中する必要があるため、第2期目標値を下回るが、第2期平均値の水準にとどめる。
21		審議会等委員委嘱数	委員委嘱数/年	目標値	47人	—	—	—	—	—	47人	毎年度	47人	毎年度	今後、人的資源を学内教育・研究に集中する必要があるため、第2期平均値の水準にとどめる。	
22		臨床現場・行政機関と人事交流を行う人数(2年以上の者)	延べ人数/中期目標期間中(期間累計)	目標値	1人	—	—	2人	—	—	3人	期間累計	3人 (期間累計)	R12	第2期実績を踏まえて設定 R7:1人 R8:1人 R9:2人 R10:2人 R11:2人 R12:3人	
(No.9)国際交流	23	海外大学との交流提携校数	校数(最終年度)	目標値	調査検討	—	—	—	—	—	3校	期間累計	—	—	指標から削除 過密なカリキュラムをこなす中で行う国際交流に必要な2校確保済み	
	24	海外大学等との交流人数(学生、教員)	学生数	目標値	6人	—	—	—	—	—	6人	R6	7人	毎年度	学生について第2期平均値5人の40%増、第2期期間中の最大値7人を目指す 円安による学生負担が増加し、学生が参加しにくい状況が進んでいることも考慮	
教員数			目標値	3人	—	—	—	—	—	—	3人	R6	2人	毎年度	業務多忙による教員確保困難を考慮	
4 業務運営	(No.10)運営体制 の改善	1	【再掲】学部志願倍率	志願者数/募集定員数(一般)	目標値	4.3倍	—	—	—	—	—	4.3倍	毎年度	4.0倍	毎年度	過去の志願倍率(新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられるR2、R3を除く)と人口減少率9%を勘案 R1、R4、R5の実績4.03倍×91%×1.1倍(向上率)→4.03≒4.0 新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられるR2年度とR3年度実績を除外。
				実績値	4.1倍	3.1倍	8.3倍	3.8倍	4.3倍	4.7倍						
		2	【再掲】【新規】大学院収容定員充足率	博士前期課程 在籍者数/収容定員数	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	収容定員の充足【削除】
				博士後期課程 在籍者数/収容定員数	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度
		4	【再掲】【新規】卒業時・修了時ディプロマポリシー到達度	学部 到達と評価する学生割合(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度	他大学を参考に設定
					実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度
				博士前期課程 到達と評価する学生割合(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度
実績値	—				—	—	—	—	—	—	—	—	80%	毎年度		
25	業務改善率(監査指導等)	改善件数/指導・指摘件数	目標値	100%	—	—	—	—	—	—	100%	毎年度	100%	毎年度	全部改善 ※指導・指摘件数がない場合は100%	
			実績値	指摘なし	指摘なし	100%	100%	100%	100%							

大項目	中項目	第3期指標項目(案)	指標の算出方法	第2期目標値及び実績値(R1~R5)					第2期目標値		第3期目標値		指標設定の考え方等			
				最終目標値の達成時期が「毎年度」の場合、「最終目標値」が各年度の目標値となる					R6 (最終)	達成時期	R12 (最終)	達成時期				
				R1	R2	R3	R4	R5						平均値(累計の場合 は直近値)		
4 業務運営	(No.11)人事の適正化	26 教員が適正に配置されている科目群の割合	教授又は准教授が配置されている科目群/科目群	目標値	100%					—	100%	毎年度	100%	毎年度	全ての科目群に教授又は准教授の配置を実現	
		27 客員・特任教員の人数	人数/年	目標値	10人					—	10人	R6	10人	毎年度	第2期目標を継続	
		28 任期制・年俸制を適用している教員の割合	任期制・年俸制を適用している教員数/教員数	目標値	13%						—	13%	R6	13%	毎年度	第2期目標を継続 R1~R4年度に配置した大学院博士後期課程設置のための任期制教員の配置終了を考慮 [上記任期制教員を除いた実績値]
		29 事務局の対応学生満足度	満足度(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	79%						—	79%	毎年度	80%	毎年度	[他学の例] 新潟県立大学 75% 長野大学 70%以上/毎年度
	(No.12)事務の効率化・合理化	30 【新規】学内会議のペーパーレス化の割合	ペーパーレスの会議数/教授会・委員会数(最終年度)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	R12	教授会・委員会のペーパーレス化を実現 ※入試や成績等の機密情報で電子化に適さない資料を除く。 R7:— R8:— R9:— R10:— R11:— R12:100%	
5 財務	(No.13)自己収入の増加	自己収入比率 ※実績値の()は、新しい計算方法で算出した値	自己収入/経常収益	目標値	33.0%						—				●以下の事情を総合的に考慮し、33%(第2期目標を継続) ・新しい計算方法で求めた自己収入比率の第2期実績平均は34.6% ・R2~R5に行財政改革による給与の臨時的削減と物件費の削減が行われ、運営費交付金収益の縮小で分母が小さくなった一方、自己収入(分子)は大きく変化しなかったため、R2~R5においては自己収入比率が高く算出される特別な状況があった。 ・他大学のR5自己収入比率 平均31.4% 三重県立看護大学 33.9% 神戸市看護大学 25.0% 大分県立看護科学大学 31.1% 宮崎県立看護大学 35.5% ●自己収入(分子)の対象 【授業料収益】【入学金収益】【検定料収益】【受託事業等収益】【寄付金収益】【財務収益(受取利息)】【雑益(財産貸付料収益)】【科学研究費補助金間接経費収入】【その他収入】 ●経常収益(分母)の対象 【標準運営費交付金を収益化して得られる運営費交付金収益】【授業料収益】【入学金収益】【検定料収益】【受託事業等収益】【寄付金収益】【財務収益(受取利息)】【雑益(財産貸付料収益)】【科学研究費補助金間接経費収入】【その他収入】	
				実績値	(33.2%)	(36.1%)	(36.4%)	(35.2%)	(32.1%)	(34.6%)	33.0%	毎年度	33.0%	毎年度		
	(No.14)経費節減	32 【新規】経費節減方針の策定と周知の実施	実施回数/年	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年1回以上	毎年度	経費節減の継続
				実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(No.15)資産の運用管理の改善	33 【新規】施設・設備の点検と、これに基づく補修工事、施設整備計画への反映の実施	実施回数/年	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年1回以上	毎年度	良好な教育研究環境の実現
			実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 自己点検	(No.16)自己点検・評価の実施	34 自己点検・評価に基づく改善率	自己点検・評価による改善件数/指摘件数	目標値	100%					—	100%	毎年度	100%	毎年度	全部改善 ※指摘なしの場合は目標達成とする。	
		35 【新規】法人情報等の公開	公開回数/年	目標値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年1回以上	毎年度	説明責任の遂行
	(No.17)情報公開の推進	36 ホームページのアクセス件数	アクセス件数/年	目標値	900,000件					—	900,000件	R6	1,900,000件	毎年度	18歳人口の減少下で、直近(R5実績)の水準を維持	

